

# 感染症情報 10月28日～11月3日

府下小児科197医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	708例(堺市	45例)
②溶連菌感染症	395例(堺市	60例)
③RSウイルス感染症	298例(堺市	21例)
④手足口病	153例(堺市	9例)
⑤伝染性紅斑	141例(堺市	11例)

府下インフルエンザ定点301医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 106例(堺市 10例)

感染症報告数は前週比10.7%増の1,931件であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で、以下、溶連菌感染症、RSウイルス感染症、手足口病、伝染性紅斑の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週と比較して22%増、堺市では45%増であった。溶連菌感染症は府下で前週と比較して41%増、堺市で34例→60例は76%増であった。RSウイルス感染症が府下で23%減、堺市は前週20例→今回21例であった。府下の定点あたりは1.95→1.51である。手足口病は府下で22%増、堺市で10例→9例であった。伝染性紅斑は府下で19%増、堺市で9例→11例であった。

インフルエンザが府下で前週77例→今回106例は38%増で、定点あたり0.26→0.35である。堺市では前週12例→今回10例であった。

麻疹の報告はなかったが、風疹が堺市で1例あり、年始からの大阪府での累計は127例となった。